

(様式1)

令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中川小学校
校長名	中嶋 保徳

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語の「関心・意欲・態度」の観点では、全学年、全国平均正答率を上回っている。・国語の「書く力」は、昨年度と同様、各学年大きく上回る結果となった。・算数では、昨年度と同様、全学年・各観点で平均正答率を上回った。特に、「数学的な考え方」では3年間上回っている学年がある。	<ul style="list-style-type: none">・5年の社会科では、全観点で全国平均正答率を下回っている。特に「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」に課題が見られた。・6年の理科では「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」の観点が、平均正答率を下回っている

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・家庭学習は、全学年、ほぼ毎日行っていると回答している。学習習慣は身に付いている。・生活習慣では、「朝食を毎日食べている」「朝は自分で起きている」の項目はどの学年も全国平均値より高い。・学習環境では、規範意識(学級の規範意識)は、昨年度と同様、各学年全国の平均値を上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・学習習慣では、家庭学習の時間が全国平均値より下回っている学年が複数あり、学力との相関関係がある。・家庭学習や授業の取り組みなど学習習慣では学級間及び個々に差があり、学習習慣を身に付けさせていく必要がある。・生活習慣では、学年が上がるにつれ起床時間や就寝時間が遅くなる。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・児童は学習には落ち着いて取り組んでいる。学習規律の基本である「中川スタンダード」を徹底させている。・習熟度別指導やTT指導等により、計算や漢字など基礎・基本の習熟を図ることができた。・課題に対して自分の考えをもち、相手に伝えたり聞いたりすることができている。	<ul style="list-style-type: none">・授業での発表や発言は、積極的な児童と消極的な児童がおり、二極化している。・理科では、観察・実験に意欲的に取り組む児童が多いが、知識・理解、技能の定着に結びついていない。・家庭での学習習慣が定着している児童としていない児童がおり、学習の習熟度に差がある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

- ①基礎学力の向上を目指して本校独自の校内学力調査を年3回(4月・9月・2月)実施する。学校独自の調査問題を作成し、基礎・基本の定着に向けた学力調査を実施し、定着度を検証していく。
- ②朝学習の時間(8:20~8:35)に、計算タイム(計算・文章問題プリント)、漢字タイム(漢

字プリント)、読書タイムを毎週設定し計画的に実施する。

③算数習熟度別指導の充実

単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態を応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実にを図る。特に、DE層の児童に対しては、10人以下の少人数のクラスとし、毎時間学習支援指導員と連携し個に応じたTTで指導を行う。

④基礎学力の定着を目的とした放課後補充学習教室「中川きっずワーク」を実施し、DE層の児童の学力向上を図る。

(2) 思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫

①校内学習状況アンケート(意識調査)を年2回(4月と2月)実施し、児童の学習への取り組み状況を把握するとともに、それに基づいた授業改善を図っていく。

②校内研究を通して、教員の授業力向上を図り、「主体的・対話的な深い学び」に基づく授業改善を図る。・研究主題「自分の考えをもち、探求できる児童の育成」を設定し、生活科・理科を中心に全教員が授業研究を行い、教師一人一人の授業力を高め、児童の学力向上を図る。

③理科の「観察・実験」の補助としてすみだSSTを計画的に活用しTT指導を行うことで、観察・実験を充実させる。観察・実験を通して自然の事物・現象について実感を伴った理解を重視し、知識・理解に関連付けた指導を行い、科学的な思考力・表現力を育成する。

④読書月間を年2回(6月・11月)実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにする。学校図書館司書を活用し、日常的に本に触れる機会を設け、「読み取る力」を育成する。

⑤タブレットPC、電子黒板、デジタル教科書などで動画や資料を授業の導入などで効果的に活用し、学習内容をわかりやすく指導する。

⑥各教科の単元や領域の学習内容にそって、外部講師としてゲストティチャーや学校支援ネットワーク事業を利用した出前授業などを実施する。経験や体験に基づいた専門的な話を聞くことにより児童の学習への興味・関心を高めるようにする。

(3) 家庭学習習慣の確立

①「中川家庭学習週間」を年3回(5月・9月・1月)実施する。児童に「家庭学習カード」を配布し、家庭での学習内容や時間等を記録し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。保護者がチェックすることにより、保護者に対しても家庭学習への意識をもたせ、児童と一緒に取り組むことで家庭での学習習慣を定着させる。

②授業の学習内容については、宿題として単元の確認問題や「ふりかえりシート」、e-ライブラリ・アドバンス等を繰り返し活用し定着を図る。翌日には必ず内容を確認し、習熟・理解ができていない児童については、個別に指導していく。家庭学習は国語・算数を中心に計画的に行い、中・高学年では、社会・理科を含め実施する。

③「生活リズム確認旬間」を年3回(5月・9月・1月)設定し、チェックカードを活用し「早寝、早起き、朝ごはん」を家庭で徹底させることで、家庭での生活習慣を整え学習に向き合う態度を育てる。

3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・習熟度別指導や補習等で基礎・基本の定着を図り、国語・算数の各学年のD・E層の割合を今年度より低くする。
- ・算数では、各学年・各観点在全国平均正答率から3ポイント以上上回るようにする。
- ・理科では、「科学的な思考」「観察・実験の技能」の観点在全国平均正答率を上回るようにする。